

報 道 資 料

令和3年11月1日（月）

教 職 員 課

小中人事係

係長 太 田 圭 悟

県立人事係

係長 新 子 泰 夫

ダイヤル 0742-27-9844

（内線） 5241・5247

令和3年度奈良県公立学校優秀教職員表彰について

県内の市町村教育委員会教育長及び県立学校長から推薦のあった「奈良県公立学校優秀教職員表彰候補者」について、外部委員7名で構成する「奈良県公立学校優秀教職員表彰選考委員会」での選考を経て、本年度下記のとおり9件の教職員を「奈良県公立学校優秀教職員」として決定し、教育長が表彰することとしました。

記

1 表彰の目的及び趣旨

この表彰は、教職員の意欲の高揚と、学校の活性化を図ることを目的として、職務に精励し、他の教職員の模範となる教育活動を実践している教職員及び教職員グループを対象として平成16年度から実施しています。また、県内の学校の活性化に資するため、表彰実践事例を県内の教育関係者に紹介するとともに広く公表しています。

昨年度から、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教職員であって、さらに顕著な成果を上げることが見込まれる者を表彰する「若手教職員等奨励賞」を設けました。

本年度は、第18回目の表彰になります。

2 令和3年度表彰の概要

(1) 被表彰者数 …… 9件

(2) 被表彰者 ……	奈良市立六条小学校	吉村 泰典
	奈良市立都祁小学校	新子 慶行
	生駒市立あすか野小学校	武田 昭二
	上牧町立上牧中学校	江本 美帆
	吉野町立吉野中学校	車谷 泰典
	奈良県立平城高等学校	山本 大介
	奈良県立十津川高等学校	阪口 剛
	【若手教職員等奨励賞】	
天理市立福住小学校	車井 佳奈	
奈良県立橿原高等学校	藤井 謙太郎	

(3) 表彰式 …… なし（コロナウイルス感染症の状況等を踏まえて）

3 具体的な表彰実践事例（代表4例）

(1) G I G Aスクール構想の実現に向けたI C T機器の活用を行った小学校教諭の事例

本教諭はいち早くI C T機器の活用に取り組み、平成27年にタブレット端末が導入された際には、学習動画を使った反転学習に取り組んでいる。

また、校内においては、1人1台の端末を全校児童に持たせる際に、その扱い方や活用の仕方を学ぶ校内研修会の講師を務め、端末導入に伴う教員の不安解消に努めた。加えて、家庭でのログイン方法を説明する動画を製作し、学校のホームページにYouTube動画としてアップするなど、新しい時代を見据えた指導法は、保護者にも大変好評である。令和2年度には、県立教育研究から依頼されたM研修（実証モデル・先進的教育の実践交流）の講師を務めるなど、日々進化するI C Tについて探求を続けている。

(2) 全教員で取り組む道徳教育の推進についての中学校教諭の事例

学校全体で様々な道徳の授業実践を行うことにより、教員と生徒の心の距離が近くなり、生徒に自己有用感や自尊感情が育まれてきた。それは、教員が道徳の授業を通して、生徒の良い所を伸ばしていること、生徒一人一人が「全員の先生が見てくれている」という安心感ができたことが一因であると考えている。このような成果により、学校全体がより一層落ち着いてきている。

学年をまたいだ教員での道徳の授業は、授業参観でも行っている。保護者からは、「道徳の授業は担任がするもの」という常識を覆した取組に称賛の声が上がっている。それに伴い保護者の学校に対する評価も上がってきており、「学校は全教員で子どもを見てくれている。」という感想が多く聞こえている。

(3) 山間部にある小規模校の特徴を生かした生徒指導についての高等学校教諭の事例

十津川高等学校は全校生徒87名の小規模校であるが、そのうちの約65%が都市部からの生徒で寮生活を送っている。彼らの多くは、様々な課題を抱えて入学しており、そういった生徒一人一人に、生徒指導部長として、長期的な視野をもちながらあらゆる機会を通して生徒と会話を重ねるなど、きめ細かな対応を行うとともに心のケアを図るべく生徒に寄り添う丁寧な教育相談の体制を構築した。また、寮の舎監長として、保護者の代わりとなって、生徒の心のケアに努め、生徒にとって安心して生活できる居心地の良い寮となるよう尽力している。

さらには、自己有用感の向上を目指し、生徒会活動や部活動、ボランティア活動に積極的に参加するよう働きかけるとともに、地域の活動に貢献することで、地域社会の一員であることを自覚させている。

(4) 学校は地域を良くする力になるか、それは生徒を成長させるかに挑戦する「書店クラブ」の取組に関する高等学校教諭の事例（若手教職員等奨励賞）

令和2年1月、校長からの一言をきっかけに地元書店を部室とし、地域社会との連携、交流から生徒の学び、成長につなげることを目的とした「書店クラブ」のアイデアを実現させ、部活動主顧問として生徒の成長に関わっている。

プロジェクトの始動において書店の協力は得られたが、コロナ禍で交流にも制約が出る中、生徒が書店にいなくても実施できるアンケート調査やポップや書籍の紹介を書店に掲示してもらったり、地域の広報誌への活動内容、書籍紹介などの掲載を継続するなどの活動を始めた。

校外の様々な年代や職業の方と関わる中で、自分の考えを的確に伝える力が伸び、学校での授業における発表の様子も確実に成長している。現在コロナ禍ではあるが、地域の方とより強いつながりをもって活動を継続的に発展させている。